

天津條約

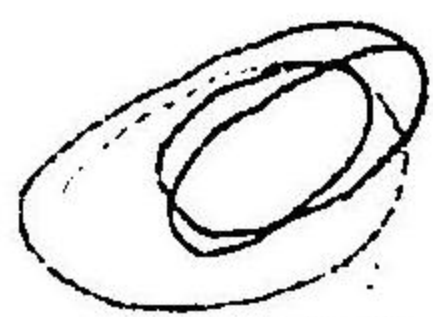
明治二十七年役

東學黨の亂

れて、我が國に投せり、是を甲申の變といふ。是に於て我が政府は朝鮮を責めて、償金を出ださしめ、又全權大使伊藤博文は別に李鴻章と天津に會して協議し、兩國共に朝鮮の駐兵を撤し、將來兵員派遣の必要ある時は、互に相通知せんことを約せり、これを天津條約といふ。明治十八年

日清戦争　西紀一八九四年明治二十七年朝鮮の南部に東學黨の叛亂起り、勢猖獗を極むるや、清國は之を鎮めんとて、兵を朝鮮に上陸せしめしかば、我が國も亦兵を出だして居留民を保護し、清國に提議するに、兩國協力して、朝鮮の改善を圖らんことを以てせり、然るに清廷は、朝鮮を屬國なりと稱し我が議を斥けしのみならず、却りて我に撤兵を要求せり、是に於て兩國の平和遂に破れ、我が軍は成歡及豐島沖に敵の

黄海の役



下、關係約

三國干涉

陸海軍を破り、更に進みて平壤の清兵を撃攘し、第一軍司令官山縣有朋は、全軍を以て遼東に侵入し、聯合艦隊司令官伊東祐亨は、清の北洋水師を黄海に破りて海上の權を收めぬ、かくて第二軍司令官大山巖の、遼東半島に上陸せしより、旅順口、威海衛相踵で陥り、別軍も亦澎湖島を取りしかば、清國遂に勢屈し、李鴻章を派して和を請ひ、我が伊藤博文、陸奥宗光と下、關に會議し、清は朝鮮の獨立を確認し、遼東半島、臺灣、澎湖島を割き、償金二億兩を出だし、且沙市、重慶、蘇州、杭州の四港を開くを約せり。明治十八年之を下、關係約といふ。然るに露西亞獨逸佛蘭西の三國は、我が遼東半島を領有するは、東洋の平和に害ありとて、異議を唱へしかば、我が國は、時勢の不可なるを察し、代償金三千萬兩を收めて、遼東半島を清に還

付せり。

第十一章 東洋の最近事件 第十八十九圖参照

韓國の狀態 朝鮮は、日清戦争後我が國の指導により、着着國政を改革し、獨立を布告せり。然るに露國は常に我を忌み、機を窺ひて威迫を朝鮮政府に加へ、私に兵馬財政の權を握らんと圖れり。西紀一八九七年明治三十年朝鮮は、國號を韓と改め、國王を皇帝と稱し、大に尊嚴を示せしも、國勢依然として伸張する能はざりき。かくて翌年日露協商成立し、更めて韓國の獨立を確認し、且露國は、韓國に於ける我が商工業の發達を妨碍せざることをなれり。

清國歴迫せらる

朝鮮王、韓國皇帝と稱す

閔妃弑せらる

列國と清國 日清戦争の結果、清國の弱點暴露せしかば

戦後四年ならざるに、清國の要地と利益とは、多く歐洲諸國の奪ふ所となり、特に露獨佛の三國は、下關係約に干涉せし報酬として、清國に迫り、次第にその利權を擴張せり。

廣州灣の租借

佛國は、戦後幾もなく東京の境界を改定して領地を擴め、廣東、廣西、雲南の鑛山採掘權を得、西紀一八九九年明治三十三年に至り、廣州灣を租借し、又東京より雲南に至る鐵道敷設權を得たり。

膠州灣の租借

獨逸は、その宣教師が山東の暴民に害せられしを口實とし、西紀一八九八年明治三十一年清國に迫りて、九十九年間膠州灣の租借を約し、且山東の鑛山採掘と鐵道敷設の權とを獲取せり。

滿洲鐵道の敷設權

露國は、先づ滿洲を横斷する鐵道の敷設權を得、西紀一八九

旅順口の租
借
威海衛の租
借

八年^{明治三}更に旅順口・大連灣を租借し、盛に東方經營の歩を進む。英國も亦露國と均勢を保たんが爲同年威海衛を租借し、又緬甸・雲南間の鐵道敷設權を得て、佛領安南と利權を争へり。是に於て我が國も清國をして、福建省の不割讓を約せしめぬ。

福建省の不割讓

康有爲

清國の改革黨 清國は、列國の壓迫に堪へず、遂に變法自強の説起り、廣東の儒者康有爲擢用せられ、頻に改革を斷行せしかば、守舊黨之を憚はず、西紀一八九九年^{明治三十二年}西太后を擁して、遂に起り、改革黨を除き皇帝を幽し、太后自、大政を握り、盛に排外の氣風を煽揚せり。

西太后の親政

北清事件 翌年山東地方の凶作なりしに乘じ、義和團と稱する暴徒起り、西教撲滅外人排斥を唱へ、所在鐵道を破壊

義和團

兩宮西走

し、外人を殺傷せり、然るに清廷の守舊派は、陰然之を助けしかば、その勢次第に猖獗を極め、遂に北京に入りて各國公使館を圍みぬ。因りて日英米露獨佛奧伊の八國は聯合して兵を出だし、先づ太沽を陥れ、天津を抜き、進みて北京を占領して公使館を救へり。時に清帝^{光緒帝}及西太后は走りて西安に在り、慶親王李鴻章をして各國公使と協議せしめ、償金四億五千萬兩を出だし、太沽・天津の兵備を撤すべきを約せり。是を北清事件といふ。

北清事件の結局

日露戰爭 義和團の亂に乗じ、露國は自國の鐵道を保護

日英同盟

すと稱し、兵を出だして、擅に滿洲を占領せり。西紀一九〇二年^{明治三十五年}日英同盟成りて、清韓の保全と東洋の平和とを聲言せり。尋で、露國も撤兵を宣言せしが、音に之を實行せざる

戦争の原因

のみならず、却りて満洲及北韓に於て盛に軍備を整へ、我が國の利權を沮害せり。

是に於て我が國は、露國と交渉を重ねること數回なりしも

議遂に協はず、西紀一九〇四年^{明治三十七年}二月戦端開け、我が軍

奉天の戦

は連、に鳴緑江、遼陽、奉天を抜き、翌年には旅順口の要塞を陥

旅順の要塞

れて露國の東洋艦隊を滅ぼし、又日本海にその東遣艦隊を

日本海の戦

撃滅し、遠く樺太を占領し、將に露軍を極東より掃蕩せん

の勢あり、かくて米國は、戦争の慘禍を厭ひ、日露兩國を調停し

彼我の委員米國に會し、談判の結果露國は樺太島の南半を

割譲し、韓國に對する我が優勝權を承認し、滿洲南部の鐵道

及租借地を讓りて和成りぬ。この間日英同盟は擴張せられ

て、清、韓、印度に關する攻守同盟となり、尋で日韓の協約全く

和議成立

日英同盟の擴張

光緒帝



韓帝李熙



西太后



丁汝昌



黄海々戦線圖 (明治二十八年九月十七日)

口、各機艦、△、我艦、△、露艦

大孤山

海洋島

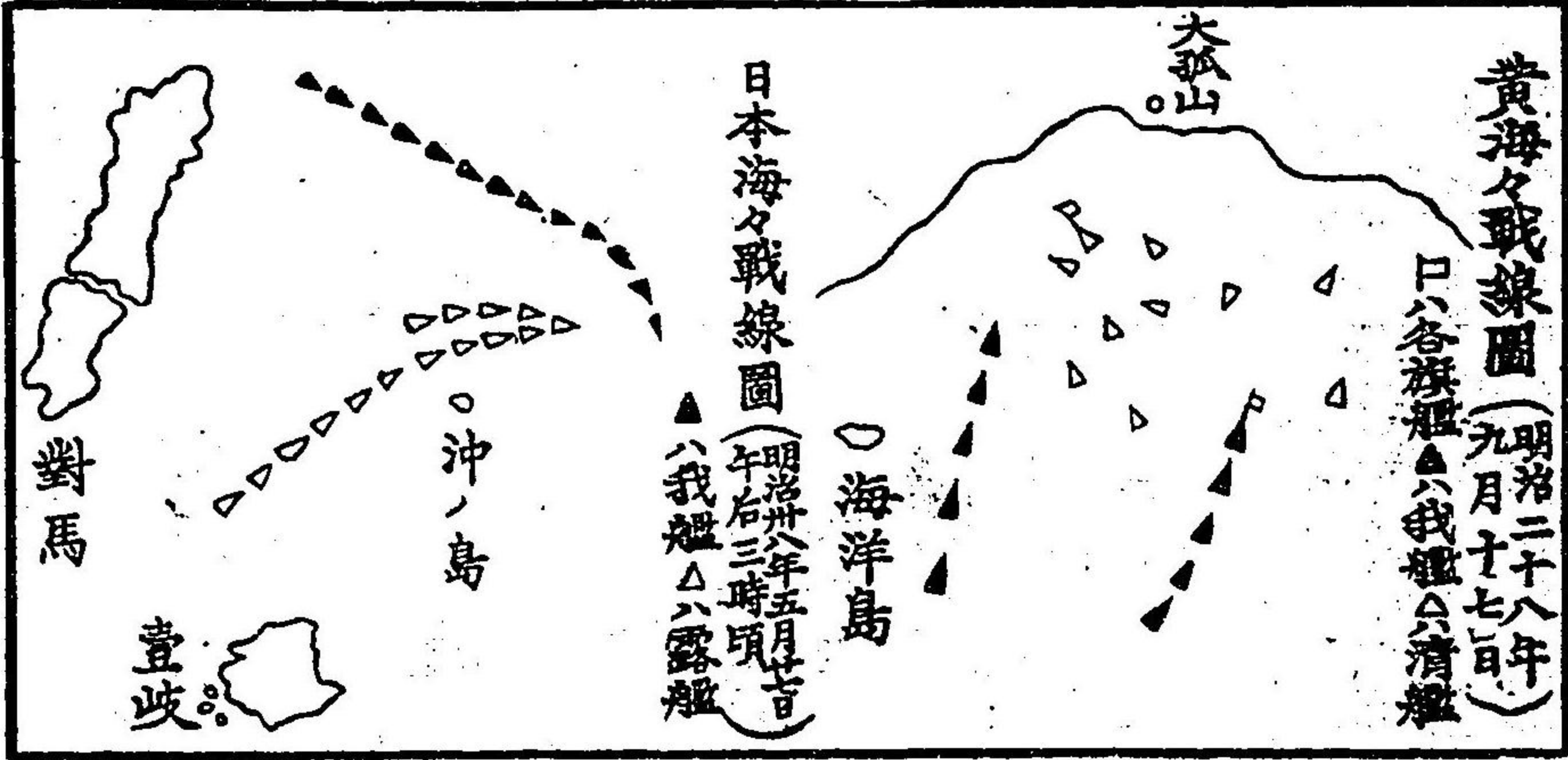
日本海々戦線圖 (明治廿八年五月廿七日)

△、我艦、△、露艦

沖ノ島

對馬

壹岐



韓我が保護
國となる

成り韓は我が保護國となれり。されば自今我國は東洋の霸
權を收め、愈多幸多望の地位に進みしが同時に、その責任も
亦一層の重きを加へたりといふべし。

新篇東洋史 終

支那歷代世系

周 姬姓 〇八百七十四年

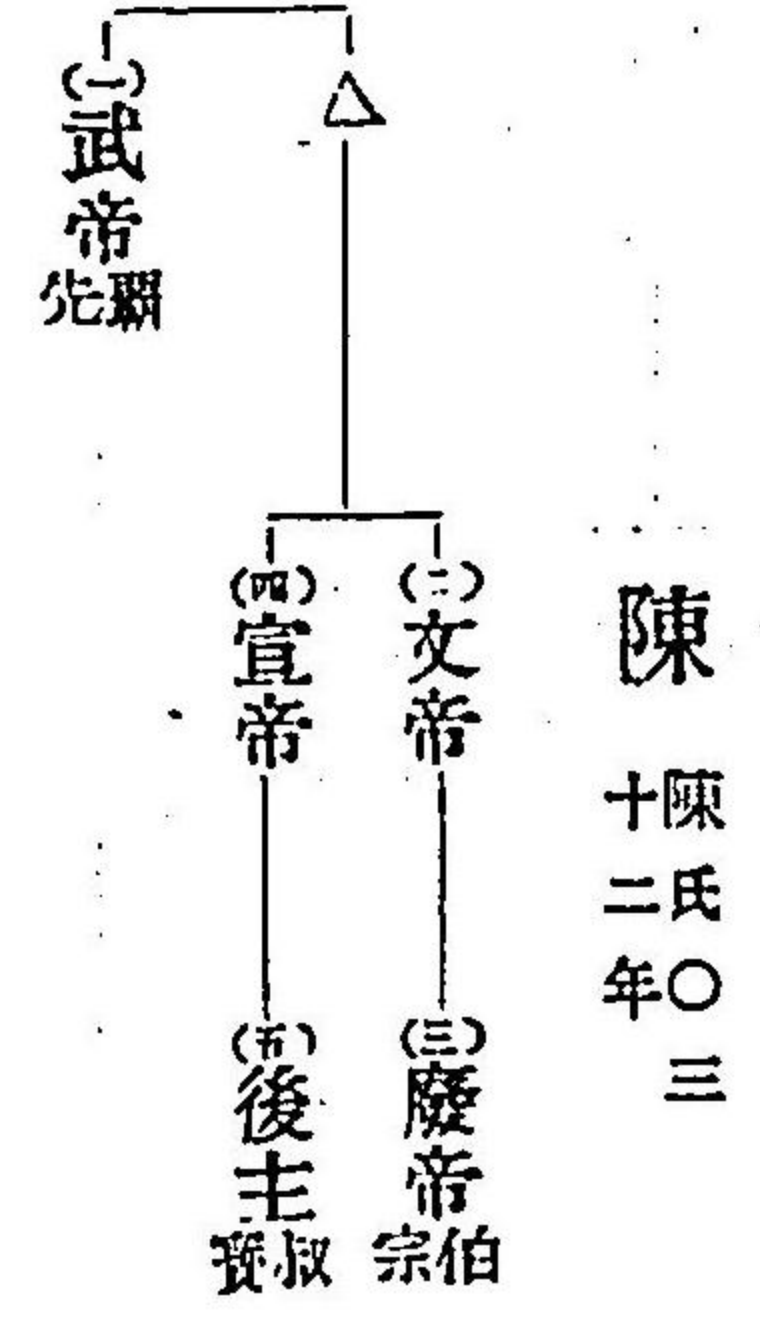
古父 虞父 — 季歷 — 昌 — 武王 — 成王 — 康王 — …… — 宣王

…… — 平王 — …… — 襄王 — …… — 威烈王 — …… — 赧王 — …… — 東周の惠公

秦 嬴姓 〇十五

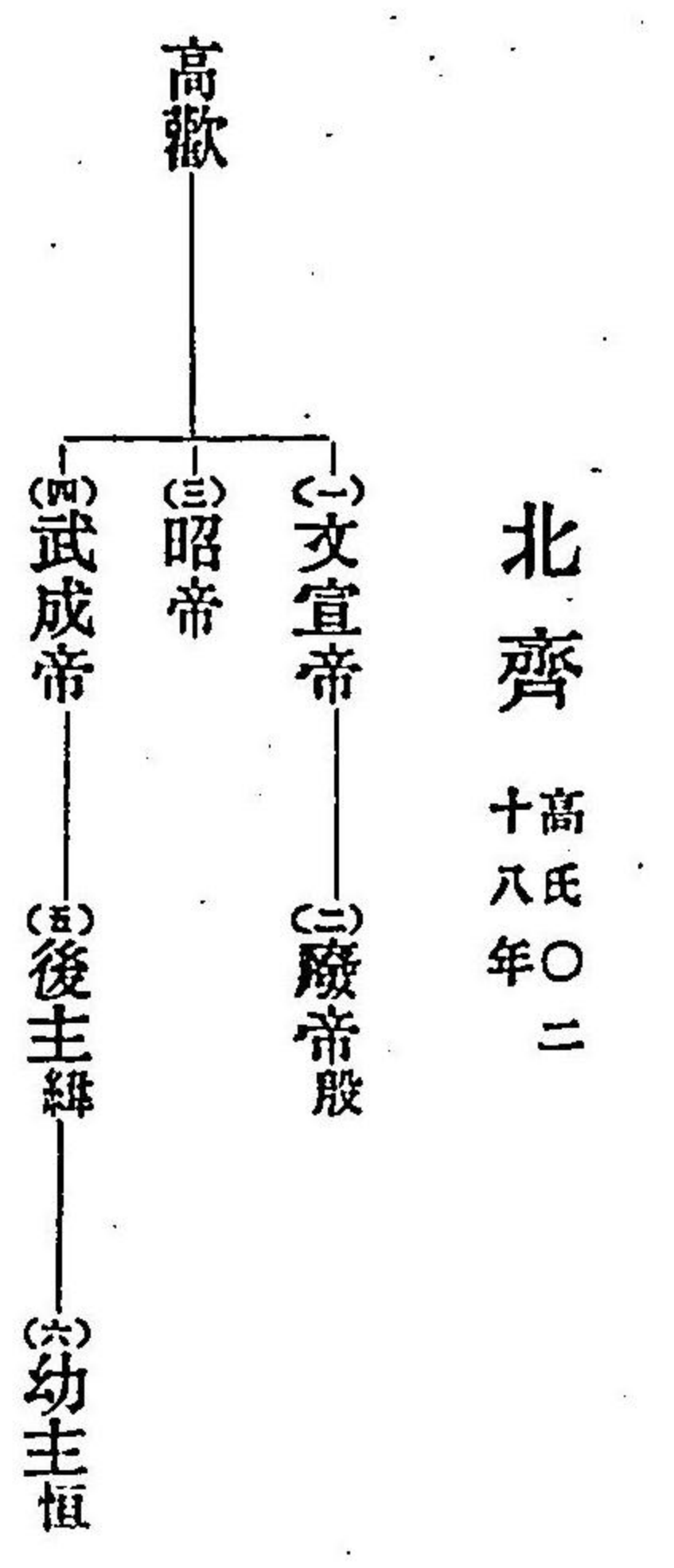
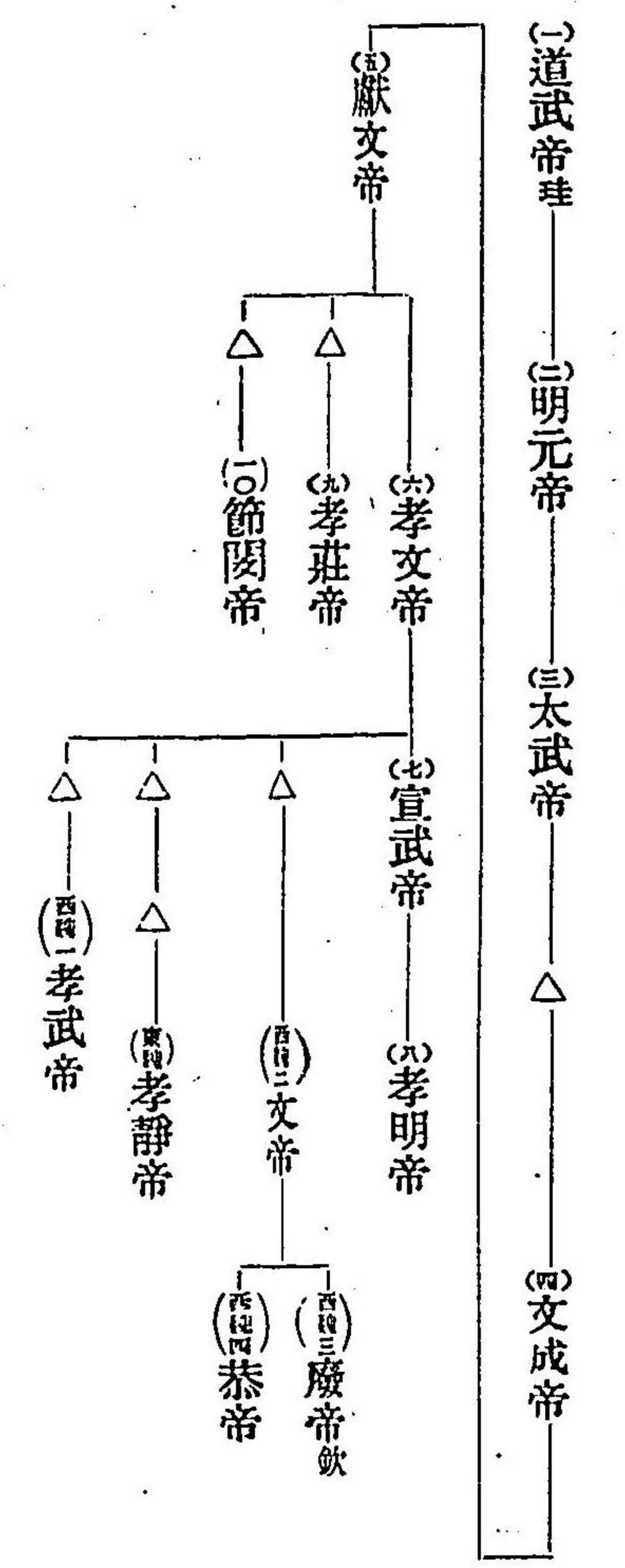
始皇帝 — 二世皇帝 — 子嬰

支那歷代世系

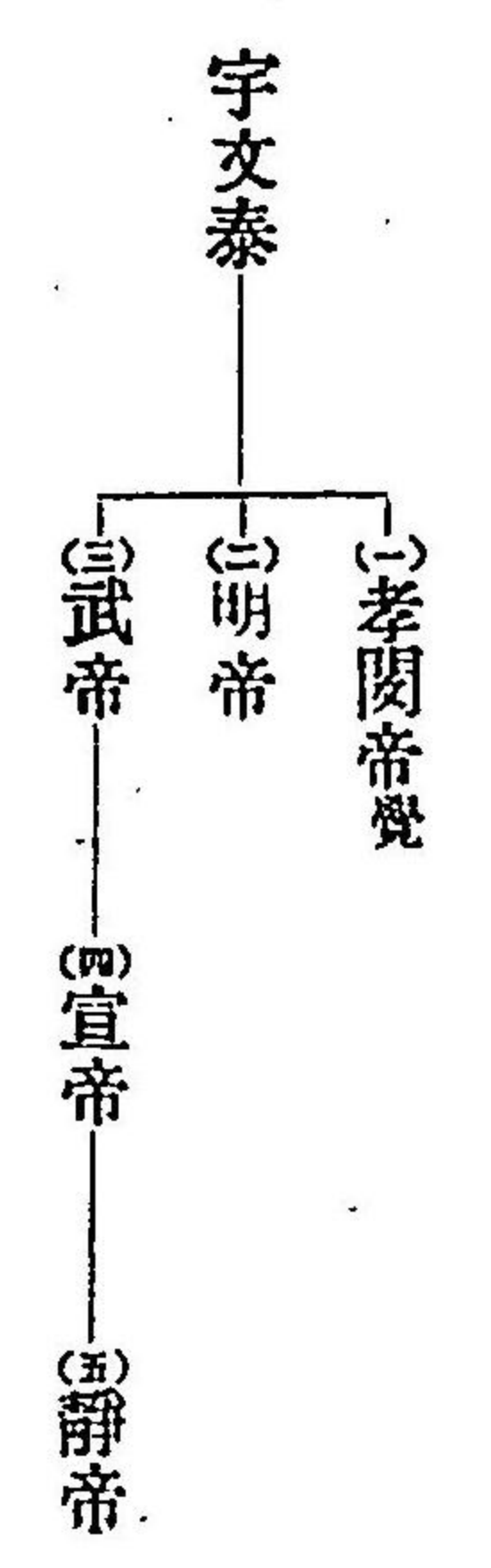


北朝

魏 拓跋氏〇百四十九年西魏は二十四年
東魏は十七年西魏は二十四年



後周 宇文氏〇
二十五年



隋 楊氏〇三
十八年



支那歷代世系

唐 李氏 百九十年二

(一)高祖 — (二)太宗 — (三)高宗 — (四)中宗 — (五)睿宗 — (六)玄宗 — (七)肅宗 — (八)代宗 — (九)德宗

(一)順宗 — (二)憲宗

(三)穆宗 — (四)敬宗 — (五)文宗 — (六)武宗 — (七)宣宗 — (八)懿宗 — (九)僖宗 — (一〇)昭宗 — (一一)哀宗

五代

後梁 朱氏 十七年〇

(一)太祖 聖 — (二)末帝

後唐 李氏 十四年〇

李克用 — (一)莊宗 存 馬 — (二)明宗 源 嗣 — (三)閔帝 — (四)末帝

後晉 石氏 十一年〇

(一)高祖 瑋 敬 — (二)出帝

後漢 劉氏 四年〇

(一)高祖 遵 知 — (二)隱帝

後周 郭氏 十年〇

(一)太祖 威 郭 — (二)世宗 — (三)恭帝

支那歷代世系

中古史(上)年表

年	代	事	年	代	事	件
孝靈	三三	秦の始皇帝即位	應神	三〇	赤壁の戦	
孝	三五	蒙恬匈奴を征す	同	三三	魏の文帝自立す	
孝元	三四	万里長城を修築す	同	三三	蜀漢の劉備、帝を稱す	
同	三二	秦亡ぶ	同	三三	安息亡ぶ	
同	三〇	漢の高祖即位	同	三三	蜀漢亡び波斯代る	
同	二四	衛滿、古朝鮮王となる	同	三五	魏亡ぶ	
開化	二四	吳楚七國の叛	同	三〇	吳亡ぶ	
同	二〇	漢の武帝即位	同	二六	晉の一統	
同	二一	大月氏の建國	同	二六	漢の劉淵、帝を稱す	
同	二二	霍去病大に匈奴を破る	同	三七	西晉亡ぶ	
同	二二	南越の平定	同	三七	東晉の元帝即位	
同	二〇	古朝鮮の平定	同	三三	佛教高句麗に入る	
崇神	二〇	新羅の建國	同	三三	肥水の戦	
同	二〇	鄭吉西域都護となる	同	三六	後魏の拓跋珪、帝を稱す	
同	二〇	高句麗の建國	同	四〇	東晉亡ぶ	
同	二〇	百濟の建國	同	四〇	南北朝對立の始	
同	(紀元)六	王莽の篡立	同	四九	宋亡ぶ	
同	三三	後漢の光武即位	同	五〇	齊亡ぶ	
同	四〇	迦膩色迦王立つ	同	五三	後魏東西に分る	
同	三三	匈奴南北に分る	同	五三	百濟佛教を日本に傳ふ	
同	三三	蔡愔佛法を傳ふ	同	五五	突厥柔然を滅す	
景行	三三	竇固北匈奴を破る	同	五七	梁亡ぶ	
同	三三	班超西域都護となる	同	五三	任那日本府亡ぶ	
同	二六	羅馬、漢に通ず	同	五〇	マホメッド生る	
成務	二七	後漢の黨錮	同	五二	隋の高祖の篡立	

近古史年表

年	代	事	年	代	事
同	同	成吉思汗即位(元の太祖)	同	同	明、交趾を併す
同	同	西遼亡ぶ	同	同	朝鮮の莊宗即位
同	同	乃滿の曲出律敗死す	同	同	交趾、明より獨立す
同	同	花刺子模亡ぶ	同	同	土木の變
同	同	蒙古軍、阿羅思に侵入す	同	同	達延、韃靼の可汗となる
同	同	西夏亡ぶ○成吉思汗崩す	同	同	ガマ印度に達す
同	同	金亡ぶ	同	同	ブラハ汗、中亞細亞を領す
同	同	拔都の西征	同	同	葡人臥亞を占領す
同	同	高麗、蒙古に降る	同	同	ヒバ汗國建つ
同	同	ウルスタットの戦	同	同	葡人明に通商す
同	同	旭烈兀の西征	同	同	印度の莫臥兒帝國建つ
同	同	蒙古の忽必烈即位	同	同	安南、兩國に分る
同	同	海都、蒙古の大汗と稱す	同	同	俺答明に入寇す
同	同	蒙古國號を元と稱す	同	同	緬甸王、莽瑞體立つ
同	同	元、日本に敗る(文永の役)	同	同	アグバル帝立つ
同	同	マルコポロ元に来る	同	同	平海衛の戦
同	同	元、南宋を滅す	同	同	西班牙人フィリピン島占領
同	同	元、日本に敗る(弘安の役)	同	同	葡人阿瑪港を借地す
同	同	元、緬甸を征す	同	同	利瑪竇、明に来る
同	同	元、占城を征す	同	同	滿洲に啓爾哈赤興る
同	同	元、瓜哇を征す	同	同	豊臣秀吉朝鮮を討つ
同	同	元の世祖崩す	同	同	東林黨議起る
同	同	燕京に基督會堂建つ	同	同	和蘭人東洋に来る
同	同	窩闊台汗國亡ぶ	同	同	英國東印度商社建つ
同	同	印度のツグラク朝建つ	同	同	佛國東印度商社建つ
同	同	倭寇の始	同	同	啓爾哈赤、皇帝と稱す
同	同	明の太祖即位	同	同	和蘭人臺灣に據る
同	同	帖木兒、中亞細亞を平ぐ	同	同	滿洲、國を清と號す
同	同	トクタムイシ欽察汗となる	同	同	朝鮮、清に降る
同	同	李成桂、朝鮮王となる	同	同	李自成、明を滅す
同	同	帖木兒印度に侵入す	同	同	清の世祖燕京に即位
同	同	足利義滿、明の封冊を受く	同	同	李自成亡ぶ
同	同	明の成祖即位	同	同	アウランゼフ即位
同	同	アンゴラの戦	同	同	鄭成功臺灣に據る

近世史年表

年	代	事件	年	代	事件
同	同	長髮賊鎮定	同	同	同
同	同	朝鮮の李熙即位(現今)	同	同	同
同	同	カンボチ、佛の保護國となる	同	同	同
同	同	交趾支那、佛領に入る	同	同	同
同	同	清の穆宗即位	同	同	同
同	同	烏蘇里江東露國に入る	同	同	同
同	同	清と英佛との北京條約	同	同	同
同	同	佛國柴棍を占領す	同	同	同
同	同	愛理條約	同	同	同
同	同	莫臥兒帝國亡ぶ	同	同	同
同	同	印度土兵の大叛亂起る	同	同	同
同	同	アロー號事件起る	同	同	同
同	同	清の文宗即位	同	同	同
孝	同	長髮賊起る	同	同	同
同	同	南京條約成る	同	同	同
同	同	阿片事件起る	同	同	同
仁	同	清の宣宗即位	同	同	同
同	同	莫臥兒帝國英人の保護に歸す	同	同	同
同	同	阮文映越南國を建つ	同	同	同
同	同	清の仁宗即位	同	同	同
同	同	阮文惠安南を一統す	同	同	同
光	同	暹羅王鄭華、清に朝貢す	同	同	同
後	同	ヘスチングス印度總督となる	同	同	同
後	同	天山南路清領に入る	同	同	同
同	同	緬甸、清に朝貢す	同	同	同
同	同	ブラッシーの戰	同	同	同
同	同	清、準噶爾部を平ぐ	同	同	同
桃	同	英人クライブ印度に來る	同	同	同
同	同	斐籍牙、新緬甸國を建つ	同	同	同
同	同	清の高宗即位	同	同	同
櫻	同	清の世宗青海を平ぐ	同	同	同
同	同	西藏、清領に入る	同	同	同
中	同	佛人チャプレス印度に來る	同	同	同
同	同	外蒙古、清領に入る	同	同	同
東	同	尼布楚の條約	同	同	同
同	同	臺灣清領に入る	同	同	同
同	同	準噶爾部、天山南路を平ぐ	同	同	同
靈	同	三藩の亂起る	同	同	同
後	同	清の聖祖即位	今	上明治元	露國アハラ汗國を降す
同	同	同	六	一八七三	露國とバ汗國を降す
同	同	同	七	一八七四	日本、臺灣を征す
同	同	同	八	一八七五	清の現帝(光緒)即位
同	同	同	八	一八七五	樺太、露領となる
同	同	同	九	一八七六	露國、ホーカンドを滅す
同	同	同	九	一八七六	日本と朝鮮との條約
同	同	同	一〇	一八七七	英國女帝印度を直轄す
同	同	同	一〇	一八七七	清、露の伊犁問題定まる
同	同	同	一〇	一八八二	朝鮮の亂民日本公使館を燒く
同	同	同	一〇	一八八二	越南、佛國の保護國となる
同	同	同	一〇	一八八三	清佛戰爭起る
同	同	同	一〇	一八八三	日、清の在朝鮮兵衝突(甲申)
同	同	同	一〇	一八八四	清佛の講和(天津條約)
同	同	同	一〇	一八八五	緬甸滅び英領に入る
同	同	同	一〇	一八八五	佛國メコン河東を取る
同	同	同	一〇	一八八五	日清戰爭起る
同	同	同	一〇	一八八五	日清の講和
同	同	同	一〇	一八八五	ハミル問題落着す
同	同	同	一〇	一八八七	朝鮮、國號を大韓と改む
同	同	同	一〇	一八八七	日露協約成る
同	同	同	一〇	一八八八	露佛英、清の港灣を租借す
同	同	同	一〇	一八八九	清の改革黨の失敗
同	同	同	一〇	一八九〇	義和團の亂起る
同	同	同	一〇	一九〇一	清、列國と和す
同	同	同	一〇	一九〇二	日英同盟成る
同	同	同	一〇	一九〇三	露國兵、滿洲に駐屯
同	同	同	一〇	一九〇四	日露戰爭起る
同	同	同	一〇	一九〇四	八月十日の海戰
同	同	同	一〇	一九〇四	遼陽の戰
同	同	同	一〇	一九〇四	京釜鐵道落成す
同	同	同	一〇	一九〇四	二百三高地占領
同	同	同	一〇	一九〇五	旅順の開城
同	同	同	一〇	一九〇五	奉天の戰
同	同	同	一〇	一九〇五	日本海の戰
同	同	同	一〇	一九〇五	日露の講和
同	同	同	一〇	一九〇五	日韓協約完く成る
同	同	同	一〇	一九〇五	韓國我が保護國となる

明治三十九年二月六日印刷
明治三十九年二月九日發行
明治三十九年十月二十一日再版印刷
明治三十九年十月二十五日訂正再版發行

新編東洋史典附

定價金六拾錢

著者 村田稔亮

發行者 水野慶次郎

東京市日本橋區通油町十八番地

印刷者 山口竹二郎

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會社東京國文社

東京市京橋區宗十郎町十五番地

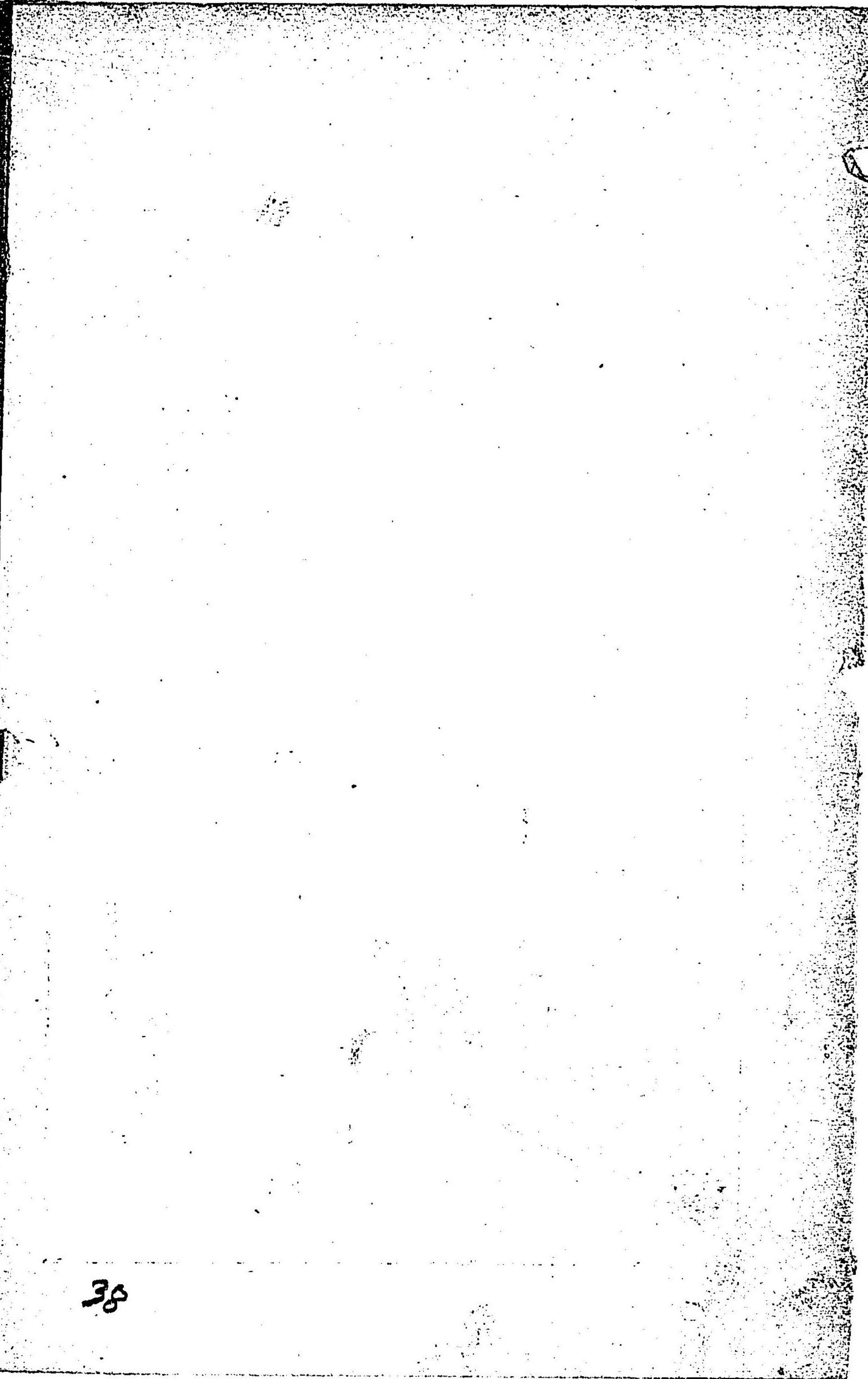
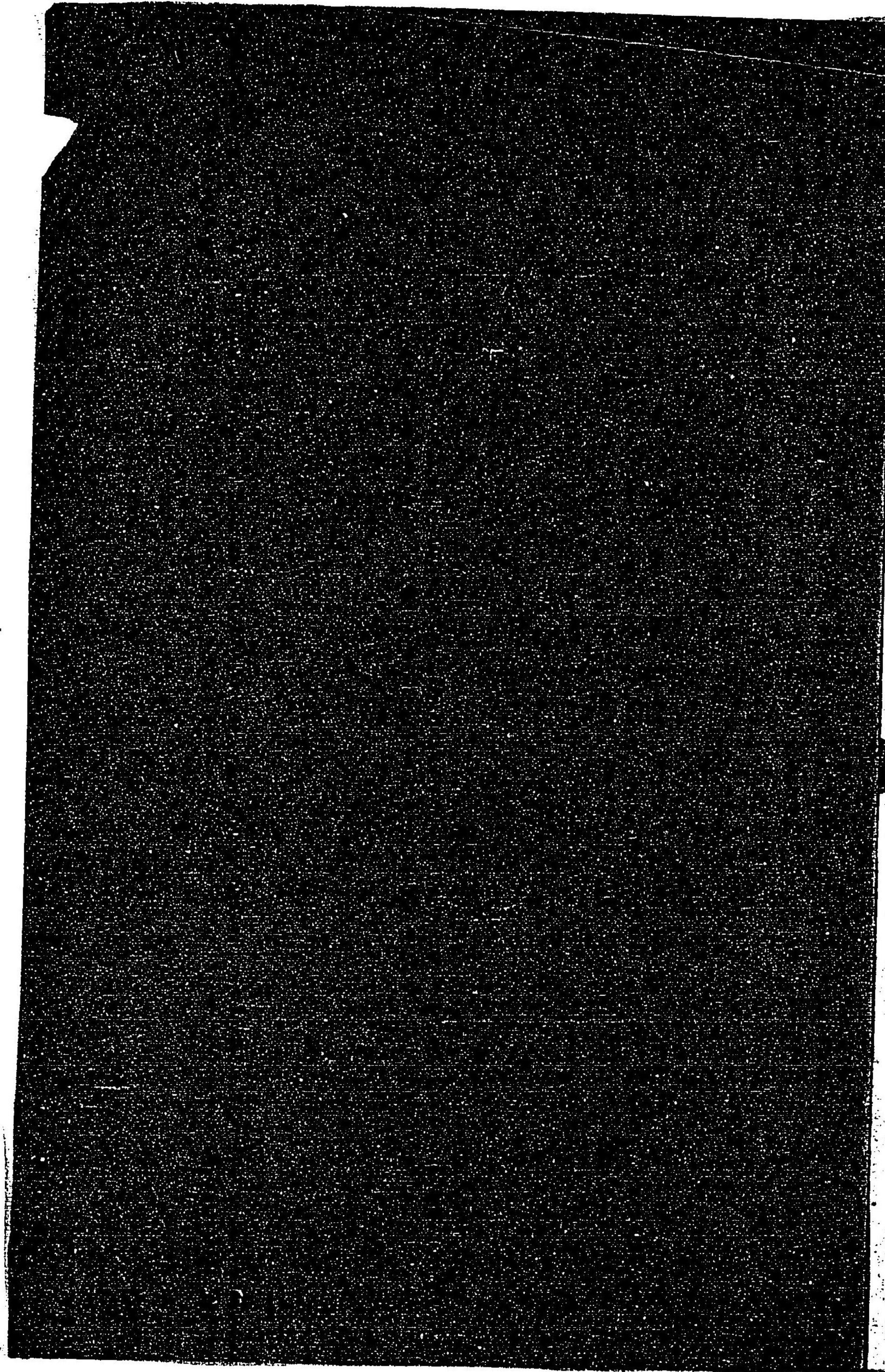


不許
複製

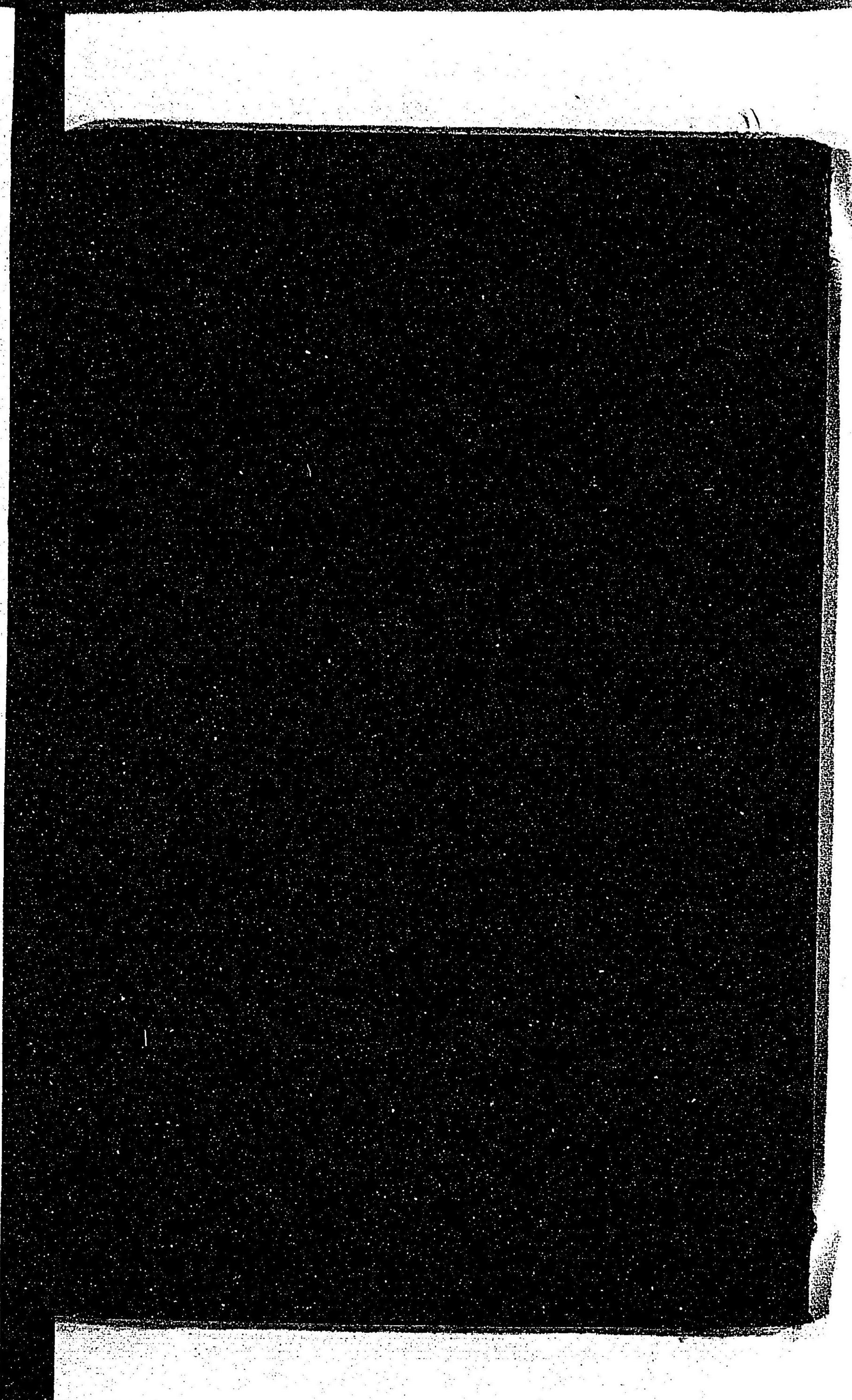
發行所

東京市日本橋區通油町
(電話浪花六七三番)

水野書店



320
15



32
113

003258-001-1

320-13

新編東洋史

村田 稔亮/著

M39

ACC-1552



